

平成20年度後学期 学生による授業評価アンケート調査（最終）

「アンケート結果に応じて」

所属部局	人文社会科学研究科		氏 名	江口 昌克
講義コード	2313031010		講義名	臨床社会心理学Ⅱ
開講曜日	水曜日	7・8時限	○専門科目 ・ 全学教育科目	
授業回数	15 回	休講回数	0 回	補講回数 0 回 受講登録者数 48人
成績評価に際し注意した事項				
<p>シラバスに示したように、提出されたレポートに出席点を加味した総合評価を行った。レポート課題は、①専門用語の説明、②日常生活における臨床心理学と社会心理学の接点を記述することで授業内容の基礎的理解と展開力を評価のポイントとした。</p>				
報告内容				
<p>1. 授業の位置づけと工夫</p> <p>臨床心理学と社会心理学の接点とその相互循環性を理解するため、この授業では、臨床心理学的援助場面を取り上げ、社会心理学的観点から実証的な説明を加えていく内容とした。テーマごとに1～2回程度の時間を割り当て講義を実施した。毎回パワーポイントを使用し、その内容に則した2～4ページ程度の資料を配布した。なお、円滑な理解を促進するため、多くの動画を用いた点は本授業の特色である。また、毎回質問票を配布・回収し、次回講義ではほぼ全ての質問や受講生の意見に対する回答を行った。その他、トピックに応じて、スモール・グループによるコミュニケーション演習などを実施し、受講生が多くの体験をできるよう工夫した。</p>				
<p>2. アンケートの回答内容について</p> <p>1) 各設問の回答状況</p> <p>満足率でみると「主題・テーマの明確さ」、「学生の質問・相談に応じる姿勢」「公平に接していた」「開始・終了時刻の厳守」などが90%を越えてはいたが、一方で、「学生の反応を確かめながら講義をしていた」、「板書・PPTの読みにくさ」、「教員の声の聞き取りにくさ」などが80%を下回る結果となっていた。CSグラフからも重要度偏差値が高いこれらの項目における満足度の低さは多いに反省する点である。授業時間内に一定の情報を提供することを優先したため、一方的な講義になってしまっていたと思われる。時間的な余裕をもった内容・進め方が必要と痛感する。</p>				
<p>2) 自由回答の記述</p> <p>「よかったところ」として、説明がわかりやすく丁寧、学生への気遣いが多く気持ちよく授業をうけられた、毎回レジュメが配布されたこと、毎回質問に回答する時間をとっていた、ことなどが挙げられていた。一方、「改善すべき点」としては受講生からのコメントが得られない結果となった。アンケート当日は回答時間を規定通り確保していたことを考慮すると、この結果は、受講生による授業へのコミットメントの乏しさと理解することができるかもしれない。学生が主体的に授業に参加する姿勢が保持できなかった点で魅力ある授業が遂行できなかったこと反省する。</p>				
<p>3. 今後の授業改善に向けて</p> <p>以上の結果から、授業のテーマ設定と受講生への対応（姿勢）などは今後も継続すべき点と考えられる。しかしながら、評価の低かった受講生の反応に応じた授業展開を図る上では、余裕のある時間配分を心がけるべきと考える。その意味で、受講生との対話機会を持つこと、本アンケート以外に独自の授業評価を実施など取り入れて行きたい。「授業を受けて知識・技術が身についた」という項目の満足度が高かったことから、より知的興味・好奇心を引き出す工夫を心がけていきたい。</p>				